Oceanside now

オーシャンサイド ナウ

vol.③

**「オーシャンサイド広報担当
ラリー・バウマンさんからのお便り」**

ハッピーニューイヤー！ことしも皆さんにオーシャンサイドの情報をお送りしていきますので、よろしく！

さて今回の話題はオーシャンサイドのお正月。富士市のお正月と比べてみてください。

◎新年の決意

私たちにとって、新年を迎えるということは、悪いことを消し去り新しいスタートを迎えるときです。何か自分自身に目標を立て、向上する決心をします。

ある人は運動をしてやせる決心や、禁煙の決心をしたり。またある人は新しい仕事を始める決意をするなど、それぞれが新年の決意をします。そして自分たちが、どんな目標を立て実行するのか、友達や親戚に宣言したりもします。でも目標を決めるのは簡単でも実行するのは大変なこと。ほとんどの人が毎年同じ決意を繰り返しているんです。(笑)

◎お正月はパーティーとアメフト

大晦日の夜はパーティー。友達の家や、ホテルのディスコパーティーに参加して、新年を待ちます。真夜中、新年が告げられるとみんな抱き合い、キスをし、お互いに「ハッピーニューイヤー」と叫びながらシャンペンで乾杯をして新年を祝います。

元旦の朝はパレードで始まります。これはマイアミなど、大学対抗アメリカンフットボールが行われる大都市で開かれ、何百万もの家族が、パレードとその後行われるアメフトをテレビで見ながら、家族との団らんを楽しみます。

▲毎週木曜日、市役所の隣で開かれる朝市。パーティーの材料もここで買うのでしょうか。

ふるさとの昔話

ツルとおじいさん

昔むかしのこと、中里にあったお話です。

中里の宇佐八幡宮の境内に、大きな松の木があったそうです。そこには、ツルの親子が住んでいました。

ある日のことです。一羽のひなが、どうしたことか巣から落ちてしまったのです。

さあ、大変。お母さんのツルは困ってしまって、悲しそうに鳴きながらひなの周りを飛ぶのですがどうすることもできません。

ちょうどそこへ、通りかかったおじいさん。

ツルの困った様子を見て、ひなを巣に戻してやろうと思いました。

でも、何と言っても大きな松の木。おじいさんは、やっとのことで木に登り、ひなを無事巣に戻しました。

こんなことがあった次の年、中里村は、大飢饉になりました。

何しろ、全く農作物がとれません。

ついに食べるものがなくなった村の人たちは、大切に取っておいた種もみまで食べてしまったのです。

春になりました。田んぼに、もみをまきたくても、村にはもう一粒のもみも残っていません。

もみがなかったら、米をつくることはできません。村の人たちが困っていると、どこからか二羽のツルが飛んで来ました。

そして、田んぼに、もみをまいてくれたのです。秋になるとそこには、たくさんの稲が実りました。

それからというもの、村の人たちはいつまでもツルを大切にしたということです。

こちら編集室

「離れてみると、富士市は裕福な街だなあ・・・と痛感しているこのごろです」

先日、県東部の何がし支局へ転勤になったS新聞記者氏からの便りの中の一文です。

彼は何が裕福かについて、具体的に書いていません。

多分、富士市は財政に恵まれたくさんの仕事ができる街だと勝手に解釈をしたのですが、一方で、いや、ちょっと待てよ。彼特有の皮肉かな?とも。もしかしたら「豊かな中にどっぷりとつかっていると見えるものも見えませんぞ!外に出なさい。そしてもう一度我が街を見詰めてみなさい。」と。

ようし、新しい年はここから初めよう!コケコッコー、夜が明けるぞ。

(鳥のように大きく羽ばたきたい私)

発　行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123　編　集・総務部広報広聴課